

带状疱疹ワクチン定期接種について



带状疱疹ワクチンの定期予防接種を、令和 7 年 4 月から開始します。
対象者には接種券と予診票をお送りしますので、予防接種の効果や副反応をご確認の上、接種を希望する場合は医療機関にて接種を受けてください。

接種対象年齢

接種期間：令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

- ①年度内に 65 歳を迎える人
- ② 60 歳以上 65 歳未満の人で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障がいがあり日常生活がほとんど不可能な人（身体障害者手帳 1 級相当程度）
- ③令和 7 年度から令和 11 年度までの 5 年間の経過措置として、その年度内に 70・75・80・85・90・95・100 歳となる人。（令和 7 年度に限り、100 歳以上の人は全員対象）

※過去に任意接種で带状疱疹ワクチンを接種した人は定期接種の対象外です。

令和 7 年度の対象者

過去に带状疱疹ワクチンを接種したことがない人のうち、次の①または②に該当する人

①令和 7 年度中に次の年齢になる人

年齢	対象生年月日
65 歳	昭和 35 年 4 月 2 日生まれ～昭和 36 年 4 月 1 日生まれの人
70 歳	昭和 30 年 4 月 2 日生まれ～昭和 31 年 4 月 1 日生まれの人
75 歳	昭和 25 年 4 月 2 日生まれ～昭和 26 年 4 月 1 日生まれの人
80 歳	昭和 20 年 4 月 2 日生まれ～昭和 21 年 4 月 1 日生まれの人
85 歳	昭和 15 年 4 月 2 日生まれ～昭和 16 年 4 月 1 日生まれの人
90 歳	昭和 10 年 4 月 2 日生まれ～昭和 11 年 4 月 1 日生まれの人
95 歳	昭和 5 年 4 月 2 日生まれ～昭和 6 年 4 月 1 日生まれの人
100 歳以上	大正 15 年 4 月 1 日以前生まれの人

② 60 歳以上 65 歳未満の人で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障がいがあり日常生活がほとんど不可能な人（身体障害者手帳 1 級相当程度）



接種回数・自己負担金

带状疱疹ワクチンは 2 種類あり、接種方法や回数等に違いがあります。

	乾燥弱毒生水痘ワクチン (生ワクチン)	乾燥組み換え带状疱疹ワクチン (組み換えワクチン)
接種回数	1 回	2 回
1 回あたりの自己負担金	5,000 円（生活保護世帯は 0 円）	

※定期接種対象者で、令和 7 年 3 月末までに任意接種として組み換えワクチンの 1 回目接種をすでに行っている場合は、残りの 1 回を定期接種として扱います。
※带状疱疹ワクチンの交互接種（2 種類の異なるワクチンを組み合わせて接種すること）はできません。

接種方法

個別通知に同封している医療機関一覧から、電話予約のうえ接種券と予診票を持って接種を受けてください。

持参するもの

▼接種券▼予診票（太枠内を事前に記入してください）▼自己負担金

上記以外の 50 歳以上の方も、引き続き带状疱疹ワクチンの助成が受けられます。
対象ワクチン：不活化ワクチン（シングリックス）のみ
●日野病院・日南病院・江尾診療所で接種する場合
当日の窓口負担が 1 回 5,000 円になる助成券を送付しますので、下記までご連絡ください。
●日野郡以外の医療機関で接種する場合
医療機関にて全額自費で支払ったあと役場への手続きが必要です。後日指定口座に助成額を振り込みます。



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

転倒による骨折 大きな原因は骨粗しょう症

今年の冬、日野病院には多くの高齢者が入院しました。病院長である私のもとには毎日、入院の報告が届きますが、その中でも特に多かったのが骨折です。

今年は雪が多く、気温が低かったため、道が凍って滑ったり、雪かきをして転倒したりする人が続出しました。尻もちをついたり、手をついたりして骨折し、入院する患者さんが後を絶ちませんでした。

私は外来で「転ばないように気をつけてくださいね」と声をかけていますが、それでも転倒は防ぎきれません。高齢になるとバラン

ス感覚が低下し、足の筋力も衰え、踏ん張る力が弱くなるためです。しかし、最も大きな原因は骨自体が弱くなっていること、つまり骨粗しょう症なのです。

骨粗しょう症の「粗」は「粗い」という意味、「鬆（しょう）」は松の葉を重ねたように隙間があつてスカスカになっていく状態を表します。実際に骨粗しょう症の患者さんの骨を調べると、中がスカスカで隙間だらけです。こんな状態では、尻餅をついて背骨に力が加わるとグシャッと潰れてしまいます（椎体圧迫骨折）。この骨折は、激しい腰痛を引き起こし、時間が経つと背中が曲がる原因になります。横向きに転倒したり、体をねじって転倒すると足の付け根の骨折を起こしやすくなります（大腿骨近位部骨折）。転倒時に手をつくと手首の骨を骨折します（橈骨遠位端骨折）。この3カ所が骨粗しょう症患者に多い骨折部位です。

骨粗しょう症は 加齢が最大の原因

骨粗しょう症は女性に多い病気ですが、高齢になれば男性にも多く見られます。例えば、50歳以上の女性の約半数が骨粗しょう症と診断され、80歳以上では8割以上になります。男性では50歳以上で20%、80歳以上で50%以上です。

骨粗しょう症の原因は加齢が最大の原因ですが、ホルモンバランスの変化、つまり女性では閉経後エストロゲン（女性ホルモン）が減少すると骨の減少が加速します。栄養不足も重要で、特にカルシウムやビタミンDの摂取不足です。運動不足や喫煙、過度の飲酒も悪化因子です。糖尿病やリウマチなどの疾患、長期のステロイド薬も骨粗しょう症の原因となります。

それでは骨粗しょう症の診断はどうすればいいのでしょうか。

今では簡単に検査ができます。最も一般的な方法はレントゲンによる骨塩定量検査です。日野病院でも骨塩定量によって椎体と大腿骨の骨密度を測定できます。50歳以上の女性、70歳以上の男性、痩せ型の人、血縁に骨粗しょう症の方がいる人、骨折したことのある人、ステロイド薬を内服している人は、ぜひ定期的に骨塩定量検査を受けてください。

次回は治療法についてお話しします。

